

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターありたま担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和 7 年 10 月 7 日（火） 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分
2 開催場所	積志協働センター 302講座室
3 参加者	30名（委員8名、関係機関8名、事務局4名、オブザーバー10名）
4 協議の内容	
開会	-
協議体会長より行った。	
前回までの振り返り	-
生活支援コーディネーターより、配布資料に基づき振り返りを行った。	
主な意見・質問など	
-	特になし。
自己紹介	①所属、②名前、③積志地区や自身の住む町での最近の話題や出来事など オブザーバーがいることを踏まえ、グループに分かれて自己紹介を行った。
情報提供①	データや地図から見る積志地区の現状について〈積志町・有玉北町・有玉南町〉 生活支援コーディネーターより、配布資料に基づき情報提供を行った。
主な意見・質問など	
-	特になし。
協議テーマ①	情報提供を踏まえた地域の現状について ・情報提供を踏まえ感じたこと、気づいたことについて ・（3町・地区全体問わず）地域の生活課題や今後考えられる取り組みについて
情報提供①を踏まえ、グループに分かれて協議を行った。	
主な意見・質問など	
Aグループ	
-	<p>■ゴミ出しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の町では、一か所ゴミ捨て場が私有地にあるため各住居から近く利便性は良いが、所有者からは別の場所に移して欲しいと言われている。そのように配慮を行うと各住居から離れた場所に設置せざるをえなくなるように感じる。 ・地域によっては、捨てる場所を指定しない地域もあるが、色々と配慮することが必要だと思われる。 ・自治会内でもゴミ出しに協力できないか協議をしているが、近隣の方に自身のゴミを見られるのは恥ずかしいと思う方もいると思われる。 ・自治会内の近隣で助け合う場合でも、高齢者同士の可能性も高いと思われる。 ・家事支援におけるゴミ出しの依頼は多く、定期的に発生する中で、地区社協も担い手の不足や高齢化が進み対応には課題を感じている。特に自身も協力員としてゴミ出しを対応しているが 85 歳になる。ただ周りに協力員も少ないため、対応せざるを得ないと感じている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・家事支援におけるゴミ出しでは、同じ町でない方が対応することも多く、その場合 3km くらいを 30 分以上かけて依頼者の家を周り、該当のゴミ捨て場に捨てに行くことが発生している。 ■買い物支援について <ul style="list-style-type: none"> ・自身は有玉北町に住んでいるが、近くにスーパーがない。2 年後にはなるが飛竜街道沿いにスーパーができると聞いている。以前は飲食店や自動車関連店が多かったため、ありがたいと感じている。 ・自身は有玉北町に住んでいるが、エブリイビックデー有玉南店や西友浜松有玉南店に買い物に行っている人が多いように感じる。 ・自身は積志町に住んでいるが、改めて町内に買い物するような場所がないと感じた。遠鉄ストア西ヶ崎店やナフコツワンスタイル浜松東店に買い物に行っている人が多いように感じる。 ・自身は有玉南町に住んでいるが、西友浜松有玉南店や杏林堂薬局有玉南町店に買い物に行っている人が多いように感じる。 ・免許返納後に買い物に困って家事支援の買い物支援の依頼をする方が多いように感じる。中には、支援の中で飲料水を数箱まとめて買って自宅まで運ぶことも含めて依頼する方もいる。買い物支援を依頼する方の状況を見ると、もし買い物支援がなければタクシーを使うしかない方が多いと思われる。 ・近くに子どもが住んでいて、買い物をサポートしている世帯も見られる。 ・(市社協)移動スーパーの利用者の中には、週 1 で子どもが買い物に連れて行ってくれるが、お菓子や日用品など子どもがいると買いにくい物や、生鮮食品など週 1 の買い物だと買いにくい物を買っている人も見られる。 ■家事支援サービスについて <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員として関わっている世帯に、家事支援サービスのチラシを見せることがあるが、「人の手を借りたくない」と自身で何とかやりくりしている人もいる。 ・定期的に回覧版に入れていると聞いたが、初めてチラシを見た。 ■担い手の確保について <ul style="list-style-type: none"> ・地区社協もそうかもしれないが、自治会も役員になる人がいない。 ・選考委員を設けて役員を探すが見つからず、選考委員が自治会長を担ったり、中には夫婦で自治会の役員を担ったりする方もいる。 ・地域の担い手を考える時に、やはり若い世代にどう関わってもらうかが課題になると思われる。 ・地域住民の中で担い手の確保する努力も行うが、市社協や市でも手だてを考えていくことも重要だと考える。 ・(市社協)確かにそのような手立ては重要だと考える。例えば、昨今災害時には地域内外からボランティアが集まり、支援が必要な世帯に訪問し、支援を行う。このようなボランティアセンター機能や整備は災害時に限らず今後求められると感じている。また浜松市では「ささえあいポイント事業」を実施しており、ボランティア活動への動機付けを図る仕組みがある。地区社協の活動もポイント付与対象にすることも、趣旨から大きく外れるものではないと思われるため、検討いただきたいと考える。 ・(市高齢者福祉課)検討する。
Bグループ	
-	<ul style="list-style-type: none"> ■地域について <ul style="list-style-type: none"> ・自身の町の社会資源は、歯医者、小児科、コンビニエンスストア程度であり、車が無いと不便な地域だと感じる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の町では、病院やスーパーが豊富であったり、小学校が近かったりする地域は若い世代の転入が多いと感じる。 ・二俣街道沿いの集落には、高齢者が多く居住していると思われるが、家族が近くに居住している場合が多いと聞いている。 ・高齢者の居場所として、サロン活動(木曜会、囲碁将棋、麻雀)が盛んなため、敢えて敬老会は行っていない。 ・自身の町では、小学校や駅が近いと、若い世代の転入者が増加していると思われる。 <p>■地域の活動団体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しんむら福寿会」というシニアクラブは、年に 20 回以上開催しており、多くの高齢者が参加している。 ・自身の町ではシニアクラブと青年会の活動が盛んであり、地域の祭りに出店するなど、地域のイベントを盛り上げてくれていると感じる。 ・自身の町の高齢者の居場所活動としては、サロン活動やロコモーショントレーニング等があるが、やはり女性の参加者が多く、男性の参加者は少ないと感じる。 <p>■地域住民同士の交流について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が多く居住する地域は、交流の希薄化が課題となり、イベントや行事の工夫が必要だと思われる。 ・祭りの前夜祭に転入者の参加が多くあった。個別の声かけが有効であったと感じる。 ・地域の子どもたちとのつながりも減ってきていると感じるため、祭りや防災訓練等の機会を活用して積極的に交流していきたいと考えている。 ・若い世代の交流が希薄化している原因として、以前に比べて共働きの世帯や多様な働き方が増えて、顔を合わせる機会が減ったことが挙げられる。 ・若い世代の転入者が多いため、高齢化率は増加していないと思われるが、班によって年齢差があり、人と人の交流において地域内の差が大きいように感じる。 ・歴史ある伝統的な地域の祭りは、興味を示す人が多いと思われる。そのため、祭りを住民同士の交流のきっかけに活かすとよいのではないかとと思われる。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、高齢者の年齢基準が高くなっていくと思われ、定年も 70 歳以上になる可能性が高い。それに伴い、自治会や地域活動に参加しない人も増えていくと思われる。 ・自治会活動(草刈り等)への参加に年齢要件を設けており、ある一定の年齢以上の高齢者は参加を免除している。 ・高齢化が進み、人口構成が以前と大幅に異なるため、高齢者を地域活動の中心にしなければその活動は継続していかないとと思われる。
Cグループ	<p>■買い物支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積志町には移動スーパーが複数入っている。生鮮食品も取り扱っているため重宝している。 ・自身は有玉北町に住んでいるが、買い物は西友浜松有玉南店や杏林堂薬局有玉南町店を利用することが多いように感じる。 ・杏林堂薬局については、生鮮食品も扱っているため重宝されていると思われる。ただ歩いて買い物に行けない高齢者がどのようにして、食品や日用品を購入しているのかについて、自治会としては把握できていない。

- ・有玉南町では、新たな住民層の流入もあるため、本家・分家のような親族間での強固な繋がりは減少傾向にある。買い物についても、近隣に世話焼きな方がいれば助け合っているかもしれないが、あくまでそういった人がいるか否かによって左右されると思われる。

■回覧板(町内の情報共有)について

- ・現在、訃報は紙で回覧しているが、最近は葬儀の日程が短期間で行われることも多く、情報が間に合わないことがある。多いときには1か月に20件ほどの訃報があったこともあり、より効率的な伝達方法が求められている。そのため、LINEの活用を検討しているが、他の自治会でどのように回覧しているか、工夫例があれば知りたい。
- ・若い世代が多い班では、班長が情報をLINEで共有するようにしている。その反面、高齢者が多い班は紙での回覧を継続しており、地域の特性に合わせ、班ごとに柔軟な対応ができるようにしている。
- ・半田町では自治会内で組織を3つに区切っている。訃報はそれぞれで回覧しており、尚且つ親戚同士が近隣にまとまって居住しているため、そうした特性もあって情報が伝わりそびれることも少ないものと思われる。

■自治会役員の担い手の確保について

- ・自治会役員の後任を早い段階から決めておいても、いざ改選の次期となると、就労していることを理由にうまく引き継げないことがある。
- ・自治会長の選出方法は自治会ごとに異なると思われるが、どのように決めているか知りたい。
- ・自治会長は、選考委員によって候補者を立て、直接打診する形で決定している。基本的には、昔から地域に居住している方の中から選出されているが、過去には例外もあり、町外から転入した方が自治会長を務めたこともある。
- ・今後のことを考えると、慣習にとらわれず柔軟に選出できることが望ましいと感じる一方で、現状の慣習により比較的円滑に改選が進められている面もある。

■地域住民同士の交流について

- ・コロナ禍の影響もあってか、住民同士でお酒を飲みながら交流する機会が減ったと感じる。今まではそうした場で関係を深めることもあった。
- ・コロナ禍以前にあった、いわゆる「飲みニケーション」の場は現在なくなっている。今後、そうした場を再開したいという意向もあるが、お酒が得意でない人もいるため、一概に進めることは難しい面がある。
- ・70～80代の男性に交流の場へ参加してもらうには、どのような工夫が考えられるか。参考となるヒントがあれば知りたい。
- ・耕作放棄地を活用した「農園サロン」を実施している。作物を育てる活動は、男性参加者のモチベーション向上にもつながる。また、地元の中学校と連携し、子どもたちにも参加してもらうことで、世代間交流が実現している。参加者の熱意が高まったことにより、継続的に活動できていると感じている。

情報提供②	民間企業等が行う家事支援サービスと他地区の多世代交流事業について
生活支援コーディネーターより、配布資料に基づき情報提供を行った。	
主な意見・質問など	
-	特になし。

その他・事務連絡	①次回の協議体について
生活支援コーディネーターより、配布資料に基づき事務連絡を行った。	
主な意見・質問など	
②次回の協議体について	
周知	意見を踏まえて、以下の通り実施する。案内通知は1か月ほど前に送付する。 ・日時：令和8年1月14日(水)13時30分から15時30分 ・場所：積志協働センター 302講座室

閉会	-
協議体副会長より行った。	

5 今後の見通し・必要な対応

前回に引き続き、よりきめ細やかなエリアにおける積志地区の現状について、委員や関係機関ともに協議を深めることを趣旨とした。

そのため、各回において積志地区の中から複数の町をブロックとして選定し、その町の生活課題やそれに対する今後の取り組みについて協議を行った。また協議にあたっては、各町の自治会長にもご参加いただいた。

前回選定した町とはまた異なる地域特性があり、比較する形でより地域の現状について理解が深まったように感じる。

また、今回民間企業等が行う家事支援サービスについて情報提供した。この間多くの地域で挙げられる担い手不足や、新たな主体の活動参加・ネットワーク構築を図るにあたっては、地区社協(など)のような地域の関係団体)と企業のネットワーク構築を図ることは重要になると思われる。その意味で、今後の民間企業等の生活支援に関するサービスなどの動向については注目していきたい。

引き続き、今年度は各回において特定のブロックの現状について協議を深めていく。そのうえで昨年度と比較して協議の過程や結果がどのように変わったのか注目しながら次年度以降の進め方を検討していきたい。